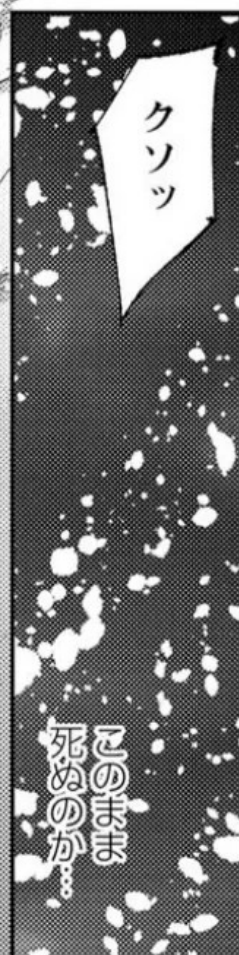
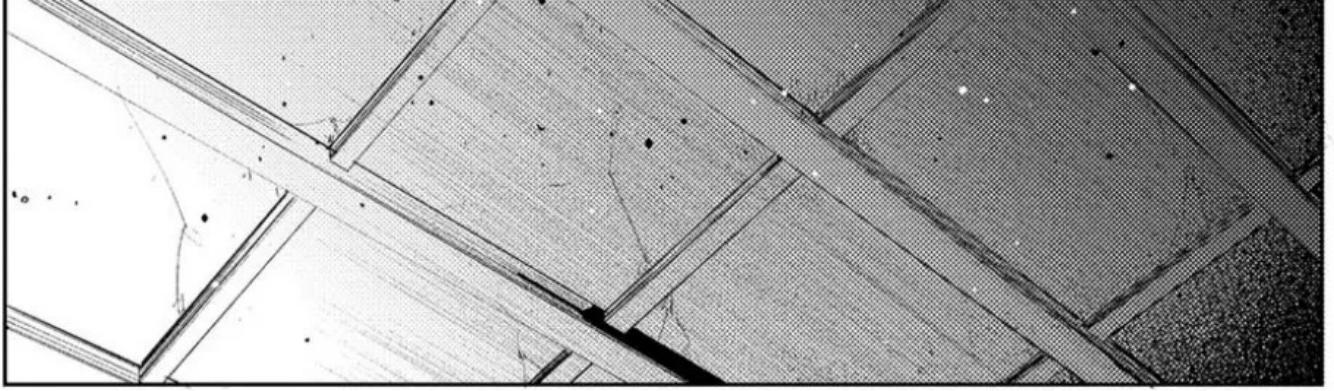


■雪山に翻弄され遠のく意識——目前には更なる驚異が…



魔未断の雪。







ユキと
申します

ふふ、



えっ
ええ!?



え
えと...?
君は...

右右



お

ユキ...さん



雪山で
倒れていました



俺はなんで...
アキ



はい

…君が
助けてくれたのか
ありがとう

はっ



そうだ
雪山に登って
吹雪で道が
わからなくなって…



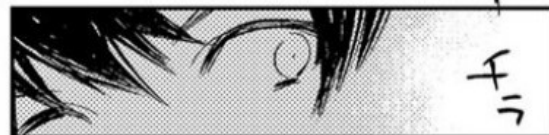
そうか…
電話あるかな？

？

マジか



はい



エッ



随分と
古そうな家だな



ここに一人で
住んでるの？



あんまり
迷惑かけても
悪いし…

今度改めて
お礼するから

山を降りるん
ですか？

待って

待ってください

うん

はっ

い

はっ



だめです！
この時期の雪山を
降りるのは危険です

わかった

んんん

お願いします…

んんんん

はっ

それから
彼女との奇妙な
同居が始まった

彼女の名前はユキ

母親が死んで以来
ずっと一人で
暮らしているという

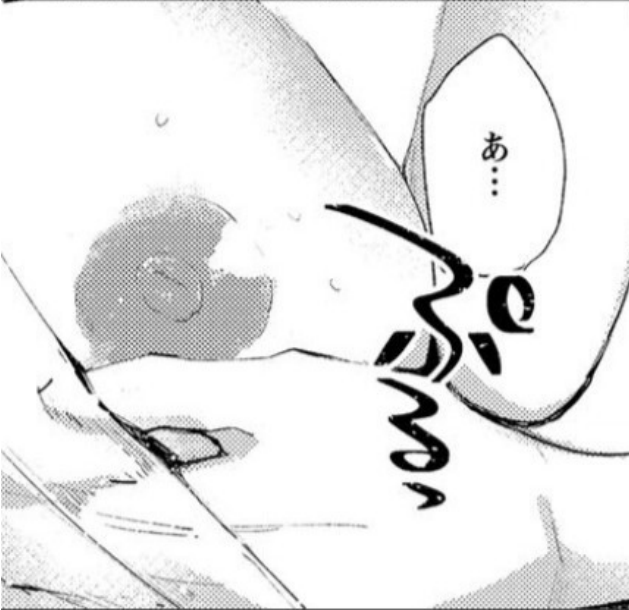
時代錯誤な感じが
するのはそのせいかな

寒さを
感じさせない
服装や白い肌

人ならざるものを
感じるが

どうしましたか

俺はこの生活を
気に入っていた





舐めるんじゃないで
しゃぶる感じ



お尻向けて



じゃあ
先っほ吸って

んっ物足りないな



バキョム？
わかんないか



またあれを
するんですか...?

するよ

男女がそろったら
セックスするのが
自然だからね



ちんこしやぶつて
まんこところどころじゃんか

すげべな
身体しやがって

あんあんっ

ひああんっ

俺も
イキそう
中に出すよっ

ユキ
俺の子産んでよ

はいっ
くださいっ
中にくださいっ

何も知らないユキを
好き勝手するのは
楽しいが

こんな雪山で
一生暮らす気は
さらさらなく

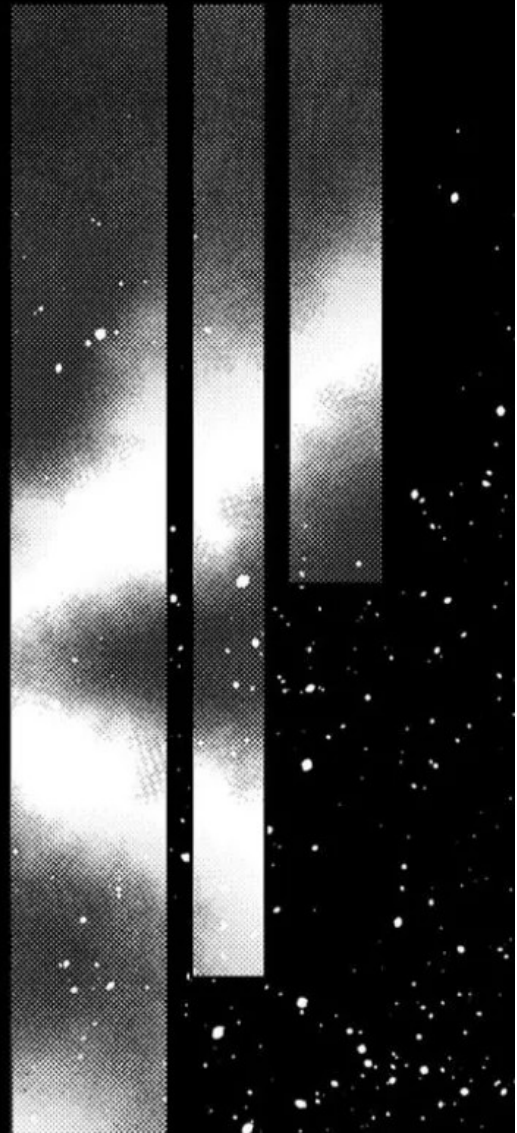
ユキに飽きたら
山を降りる気でいた

ブカ
No no no no











そんな
格好で…

トニラ



うん



ユキ?
外出てたのか?

ガラ



慣れてるから
大丈夫

獣肉捕れたから
ご飯作るね

べしや



よく
捕れたな

うん

はい



肉とか
久し振りだな

カキ





嘘だろ…

ふんふんいな



——っ



まさか
さっきの!?



だって
ご飯がないから

ご飯で…

いざとなったら
二人で山を降りれば
良かっただろ

私は雪女だから…
山を降りれないから…

何いってんだ
ユキ
わからないよ…

雪女の肉は
人にとって美味だって

美味しかった
でしょう？

不老長寿の
特効薬にも
なるんだって

だからこうして
私は人里離れて
暮らしてる



ふんふん



貴方に
食べて欲しいの



そんなこと
言われたって…



雪女ってなんだよ
バカバカしい

そんなの
いるわけないだろ



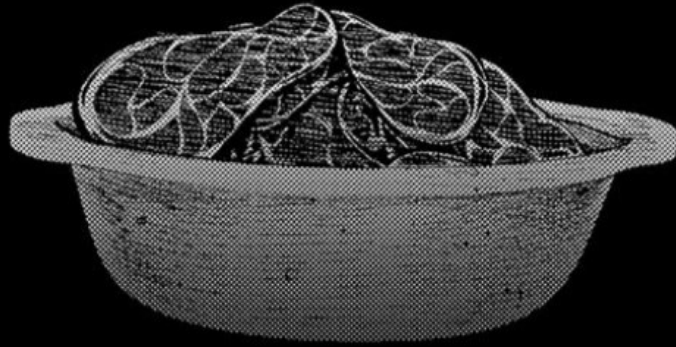
マジかよ

何だあいつ
正気じゃねえ

あつ

確かに

あの肉は
産まれて一番
美味しかった



お腹すいたで
しょう？

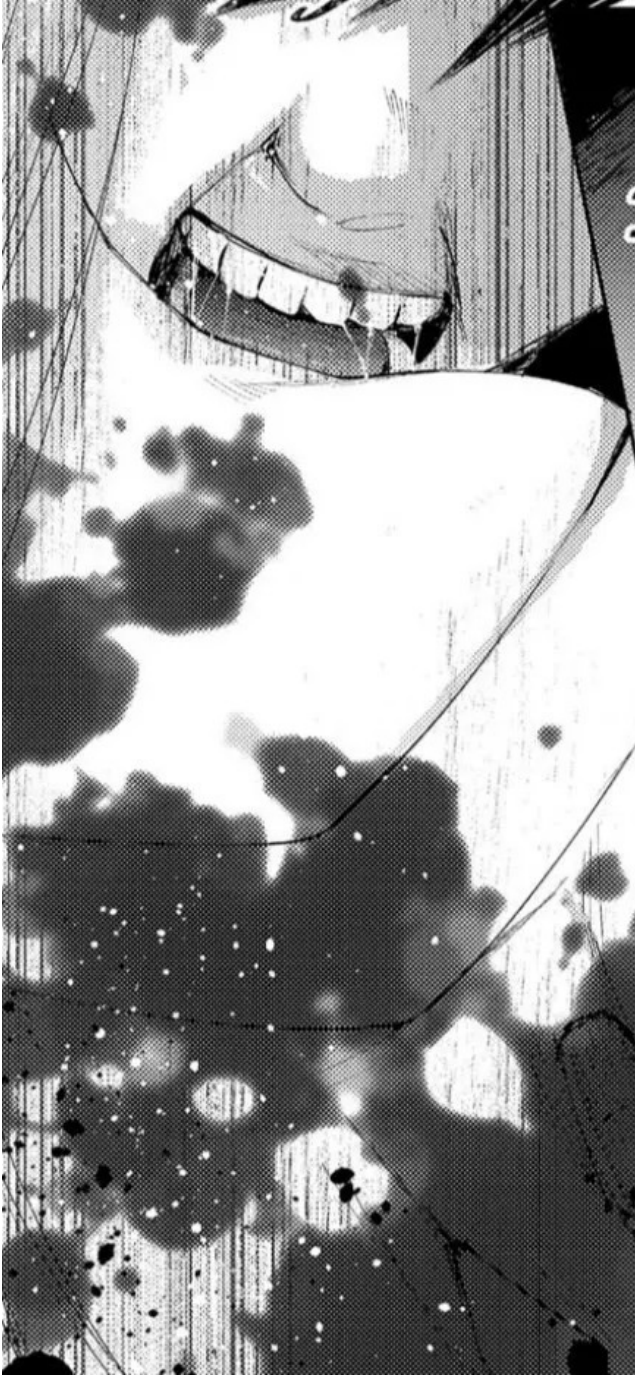


ユキ…



こんな
ところにいると
また凍えちゃうよ





響

響

響



雪の断末魔。／おわり

